

国大協企画 2 2 9 号
平成 2 4 年 2 月 2 0 日

独立行政法人
大学評価・学位授与機構長
平野 眞一 殿

一般社団法人国立大学協会
大学評価委員会委員長
山田 信博

大学機関別選択評価実施大綱及び選択評価事項の改訂案に関する
パブリックコメントの募集について（回答）

平成 2 4 年 1 月 3 0 日付け評学機構評企第 2 2 号にて照会のありました標記について、別紙のとおり回答します。よろしくお取り計らい願います。

改訂案への御意見について

	該当箇所	御意見
1	自己評価実施要項 P.23 C - 1 - 【留意点】	国際通用性の高い教育課程の編成・実施例として、「 Semester / クォーター制、秋入学、コース・ナンバリング、GPA の採用と成績分布チェックによる厳格な成績評価」が挙げられているが、国際交流に必要な制度を導入することが肝要であり、海外の制度の例示には慎重であることが望ましい。
2	評価実施手引書 P.7 事項ごとの評価 (3) 事項の評価	項目ごとの『判断を示す記述』については、各大学で自己評価を行うにあたって「一般的な水準」では分かりづらいため、指標を示すなど明確にしていきたい。
3	同上	項目ごとに「一般的な水準から卓越している」という段階を設定しているが、評価の目的から意味があるのか疑問である。「卓越」というよりも、その大学において特徴的な試みの特記する程度で良いのではないか。大学の取組のなかで特徴的な事項を評価結果に具体的に引き上げるのが、アカウンタビリティという意味においても効果的である。
4	その他	選択評価の実施の有無によって、機関別認証評価での国際化に関連した教育活動の記載内容は変える必要があるのか等、機関別認証評価との関係を明確にしていきたい。
5	その他	選択評価事項 C の実施にあたっては、例えば試行期間を設ける等、十分な検証を行いつつ実施することが望ましいのではないかと。

上記回答欄につきましては、御意見の数に応じ、適宜追加願います。